

ライブラリー・スケッチ

「旅への誘い」



第1閲覧室へ向かう階段を上りきったところに新しく設置された棚、全都道府県を網羅した旅雑誌『るるぶ』をお探しの方はぜひこちらへ。これからの季節、卒業を控えた4年生のみなさんは卒業旅行に、それ以外の年生の方は春休みの旅行にこの棚を活用してみてもどうでしょうか？棚を彩るカラフルな雑誌に思わずどこかへいきたくなること間違いなしです。第1閲覧室だけでなく第2閲覧室にも旅雑誌を取り揃えています。漠然とどこかへ行きたいと考えているあなた、その考えを現実に見してみませんか？

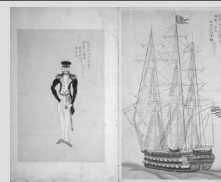
絵・文とも 坪井 圭介（英米語学科4年生）

図書館利用案内

本誌の表紙に使われた貴重書

『弘化三年五月浦賀江渡来亜墨利加軍艦と乗組員之圖』

弘化3(1846)年



1842年、イギリスがアヘン戦争で中国に勝利し、欧米の国々が中国へ進出するようになると、アメリカは対中国貿易や捕鯨漁の補給基地として日本に着目するようになった。このような中、弘化3(1846)年にはジェームズ・ビッドル提督がヴィンセンス号とコロンバス号を率い、江戸湾浦賀沖に来航して開国を求めたが、幕府は「國禁にして免さざる事故に、早々歸帆すべし」と諭して退去させた。これは、ペリー提督が浦賀に来航する7年前の出来事であり、ペリーはビッドルの経験をもとに事前の日本研究を進め、遠征を成功させることになる。

この図録は、ビッドルが来航したヴィンセンス号と乗組員を描いたもので、全9図から成っている。ここに書かれた艦船や兵士の服装は、当時の日本人には大変に珍しいものであったと想像でき、このような絵に描き留めたものと思われる。

この資料には「ボストン号」の書き加えがあるが、この年に「ボストン号」が来航した記録はなく、艦名の認識に違いがあることがわかる。アメリカ海軍の記録によれば、ヴィンセンス号が「ボストン号クラス」の同型艦として造られていることから、乗組員が行った艦名の説明を当時の通詞がボストン号と混同したものか、もしくは後世になって誰かが誤って記載したものと推測できる。

なお、この資料には作家であった故大佛次郎氏の所蔵印があり、同氏の旧蔵であったことがわかる。